

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 15日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス HUGS

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	78%	22%	活動によって机・椅子の配置を工夫し、安全に気をつけています。	重心児や医療ケアのお子さまも同空間で過ごすので、どのお子さまも安心して落ち着いて過ごせるようにスペース確保を随時見直していきます。
	2	職員の配置数は適切である	89%	11%	基本の人員に加えて加配職員を配置しています。また、医療ケアに必要な看護師も配置しています。	個別対応が必要な時や、活動によって不足を感じる時は、より連携をとっていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	89%	11%	入口はバリアフリーになっており、トイレにも手すりを設置しています。	通路を確保できるように、人の導線の見直しや、荷物や椅子を置くスペースの確保に努めています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	全職員が管理者と面談を行って、振り返る機会を設けています。	今後も、業務改善が出来るように努めています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	内容の共有と改善点の協議を、会議で行っています。	結果情報を職員で共有し、改善点を話し合い、より良い事業所作りに活かしていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		例年は、全利用者への配布と玄関前の掲示でしたが、今年度はホームページ上に掲載いたします。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	78%	22%	現時点では第三者評価は受けていません。	今後、必要に応じて実施を検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的な内部研修の実施と、外部研修の積極的参加をすすめています。	職員全体の意識の向上に努めています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	現状を把握できるように、情報収集を行っています。	最低6か月に一度は面談を行い、目標の達成度や課題を保護者様と共有し、支援会議を行って作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	標準化されているものと、それ以外のアセスメントツールを使用しています。	内容を整理し、理解をより一層深められるようにしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		月、週ごとに大まかな目標と活動を話し合って計画を立てています。日々の細かいことは、日ごとに協議して決めています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	特性や理解度に合わせて変化をさせています。	意見を出し合い、マンネリ化しないように、子ども達の成長や季節に合わせて新しいことを取り入れています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	89%	11%		準備不足にならないように、早くから取り組む必要があるものは準備が出来るように時間の確保に努めています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	89%	11%		個別活動、集団活動共に計画し、目標に向かい支援にあたっています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	職員間で情報共有し、時間・予定等確認しています。配置や手順は、手順書に図解入りでわかりやすく提示しています。	十分な時間の確保に努めています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	89%	11%	改善すべきこと、工夫すべきことなどをスタッフ間で話し合っています。	引き続き、行ってまいります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	どの職員も記録が出来るようにしています。	その日の様子以外にも、変化、成長する姿、配慮が必要なこと等を記録しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	今の取り組みが、将来にどうつながっていくのかを伝えるようにしています。	半年に1回は面談を行っています。保護者様、本人の思いを聞き取れるように行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%		ガイドラインの読みあわせを行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	主に児童発達支援管理責任者が参加しています。	引き続き、行ってまいります。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者様やホームページを通じて、行事や下校時間の把握が出来るように協力をお願いしています。	学校によって情報の量が違うため、必要な情報の取得や提供に努め、トラブルが怒らないように事前の連絡調整に努めています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	89%	11%	在宅ケアの工夫など、情報提供を積極的にしています。	基本的には保護者様を通じて、医療機関と連携をとっています。必要に応じて、直接行って話を聞かせていただいています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		保護者様を通じて、発達検査や事業所での様子の情報を提供していただけるように努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	89%	11%	具体的な支援方法を記載した内容を書面でお伝えするようにしています。	必要に応じて事業所を訪問して情報を伝える体制を整えています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	56%	44%		研修の機会があったときは、代表者が参加しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	56%	44%		散歩・戸外活動する機会を作り、地域の子どもと一緒に遊ぶ時もあります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	78%	22%		案内があったときは参加するようにいたします。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	電話だけでなく、LINEで連絡がとれるようにしています。	連絡帳や送迎時にも子どもの状況を伝えあい、情報共有をし、支援につなげています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	89%	11%		モニタリングの面談以外、相談はいつでも受け付けています。ペアレント・トレーニングの要素も含んでいると認識しています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時にご説明しています。	変更があったときは、詳細にお伝えするように努めています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		保護者支援も大切に考えています。日々の負担が大きくなるように留意して相談に対応しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	67%		今年度は実施できませんでしたが、今後、オンラインを含めて開催できるように検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		相談があった時や、その前の段階でも、事業所側からお声がけをすることで、相談しやすい雰囲気を心がけています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%		今は不定期ですが、今後、定期発行できるようにしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	89%	11%		細心の注意を払っています。会議等で意識づけの徹底に努めています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		子どもの特性に合わせたコミュニケーション方法を用いています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	44%	56%		地域の清掃活動を通して、開かれた事業所作りを行っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	子ども達との年2回の避難訓練の他、緊急時の対応マニュアルや指針も作成して、職員に周知しています。	保護者様に周知出来るように準備しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	火災、地震、津波対策に対する避難訓練を定期的に行っています。	機会を増やせるように、計画段階で協議していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		虐待防止委員会を設置して定期的な会議をしています。全体での研修もしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		身体拘束適正化委員会を設置・運営をし、個別に協議決定しています。該当する時は、事前に保護者に説明し、同意をいただいています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	面談時に保護者を通じて確認するようにしています。	掲示して職員がすぐに確認できるようにしています。
	43	ひやりはつ事例集を作成して事業所内で共有している	89%	11%	支援開始時に職員が確認し、現状が把握できるようにしています。	ひやりはつ防止委員会を設置し、職員全体で振り返ることが出来ています。